

Riho  
のドイツ  
便り



No. 70

# ソーラーボートで 夏を満喫 ♪

暑い夏、きらめく湖を見るとボートにのりたくなります。ハノーファーでは市役所裏のマッシュ湖がぴったり。ソーラーボート「ヨーロッパ・エネシティ」(写真)が運航され、好評を得ています。

湖はナチス政権下、失業対策の一環として造られたもの。深さ2m、一周6kmで周囲は森に囲まれ、市民の憩いの場となっています。この湖にソーラーセル5.6kWhを載せたソーラーボートが走っています。2000年の世界万国博覧会が開かれたのに合わせて導入されました。

ソーラーボートは10kWの電動モーター2つと、80V / 495AHのリチウムイオンバッテリーを装備しています。船体はステンレスを使った軽くて安定した構造で、機能的なデザイン。太陽光で発電しバッテリーに充電して運行しますが、ソーラーエネルギーだけではなかなかまかなえず、外部より充電します。運行速度は時速8kmで、約50分で湖を一周します。

室内はガラス張り、アーチ状の天井となっています。長さ22mで最高66人を収容でき、結婚式や誕生日会など貸し切りのほか、日曜日はランチやコーヒーとケーキで賑わいます。ガス暖房とトイレがあるため、少し寒い季節でも大丈夫です。しかし湖が凍ることもあり、冬期はやっていません。このボートを作ったのは「コプフ・ソーラー船」社。1995年より開発をはじめ、ドイツ各都市のソーラーボートの多くは同社のものです。

ハノーファー市は2050年までに、CO<sub>2</sub>の排出量を1990年比で95%削減し、エネルギー消費量を半分にするを目標としています。ソーラーボートは環境都市を自負するハノーファーのシンボリックな存在。私も先日初めて乗りましたが、風が吹き抜け開放感があり、滑るような乗り心地が快適でした。夕暮れ時の変化する空を眺め、ビールを飲んで最高でした。



## ドイツで子育て



幼稚園の音楽教室にて。真ん中が明。今年卒園する子たちで、右隣の金髪の子以外、移民の子またはハーフ。みなドイツ国籍は持っていますが、多彩な顔ぶれです。

7月半ば、明は4年間通った幼稚園を卒園しました。3歳から6歳の混合クラスで、25人中11人が今年卒園となりました。しかし卒園式も何もない。6月末から学校が休みにはいったため、親に連れられてバカンスに出かけている子が多いとのことで、最終日には半分ほどしかいません。先生とは抱き合ってお別れしましたが、それ以外普通の日とかわらななんだか物足りないような。唯一、ここ2年間の活動をまとめたファイルをもらい、明の絵や写真が入っていました。

幼稚園では学芸会、運動会、遠足などの行事もなく(ドイツではこれが普通)、保護者会も年に一度だけという園でした。しかし明は楽しく通っていたので、子どもたちは満足なのでしょう。8月10日が入学式で、明は晴れて小学生になります。